

26

七x 514

井上龍太郎著述

實用兔飼養新書

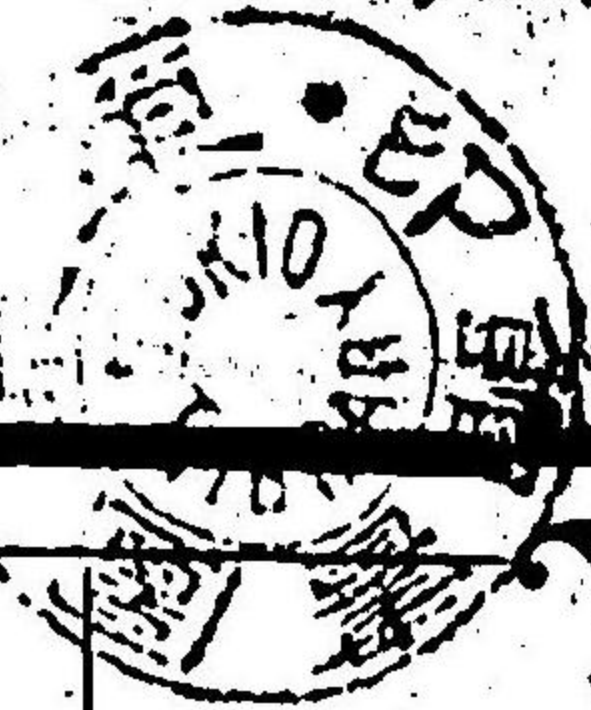
全

井上藏版

特29
939

№22637

22



井上龍太郎著述



實用兔飼養新書
全

井上蔵版



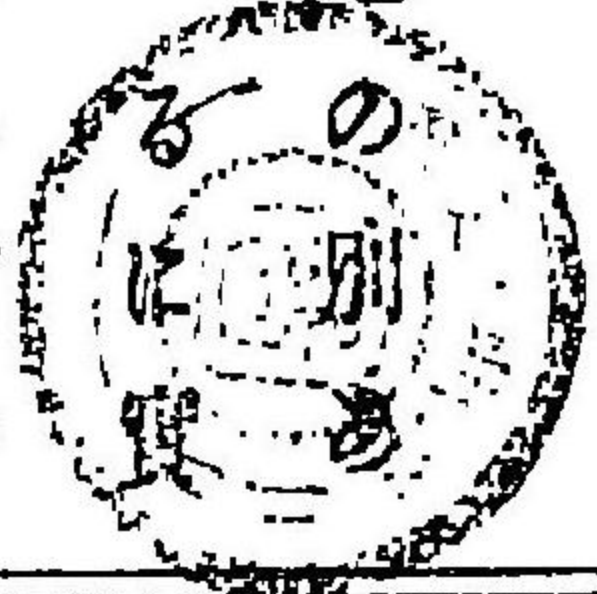
共土薙刃

共土翳太浪著並

實用次國叢書 全

總論

夫れ我帝國の歐米列國に比し富強開明の度に天地の別あり
 るは抑も何んぞや其源一にして足らずと雖も要するは實
 業の榮衰如何に起因する者ならん抑も實業とは何んぞや
 必ずしも農工商の三業に外ならん故に此三業をして遠隔
 ならしめず相俱に随伴せしめ共に益と之れが進歩を謀り
 以て一鼎の働きを爲せば殖産の業從て隆盛に趣くや必せ
 り是れに反して若し三業の内以て一を缺けば恰も飛鳥の
 左翼を失ひ走車の片輪無きが如く遂に業務の澁滯を來た
 し充分の運動を得ざるは自然の勢ならん抑も本邦は往古
 農を以て歳入の基本となし以て一國の經濟を整理するが
 故に萬般の事物盡く農力に依らざるなきは無し故に農家



は祖先傳來の田圃を習慣に因りて耕耨し固く舊習ヲ墨守して改良を計らざるは何ぞや曰く農家は其業に力を盡さるるに似たり近時漸く農業の改進せしも他の工商に比すれば尙舊昔弊裡の地位に依然たるを免れず單に稼稻の勞より農事に非らざるの思想をなし牧畜は農業の一にして其最も必用たるを知る者鮮少なるは實に嘆息の至りならずや已に三業相互に密接の關係を有し以て圓滑の旋轉を得ざれば到底生産の隆盛を得る能はず宜しく此意を解知せば今にして農家の遺弊を一洗し茲に牧畜の一新利を課し以て益々之れが改良を計り尙之を精勵せしむるは最大の急務ならん將來一日を空しくすれば一日の弊害を増加するのみ今や農を以て自任する者豈に猛省奮起せざる可

けんや余之れを憂ふるの極茲に至り大聲叱呼して普く全國農家の注意を喚起せんと欲するとは他に非ず即ち食用兎の飼養是なり是れを以て衰頹せる農業の不振を救ひ將た牧畜の階梯たらしむるに適するや否順序を追て茲に陳べん

予が養兎に於て實地經驗する事跡は本邦に採りて如何なる利あるか他なし我國今日の情況に適合するものなりと信ずる者なればなり

夫れ兎は飼養容易にして草食を旨とし佳良の肉及毛皮尿に至るまで皆有用ならざるはなし是に因て農家は稍や家畜の利あるを知ると雖も牧畜業は尙未だ幼稚なり近時本邦に鵜種ウヰノタマの改良を説くものあり又實地に是れが改良を

計る者あり以て大に該業の進歩を見るに至るは實に欣躍
に堪へたり獨り兎のみは然らず偶々飼養するものあるも
單に玩弄物たるに過ずして未だ實用的の食料兎を飼養す
る者甚だ稀なり今や鶏種の改良に次で蕃殖を計るべき必
用なるものは養兎是れなり實用的食料兎則ち是れなり兎
は飼養容易にして他の家畜に先んず可きは誠に正當の順
序なりとす
予が飼兎蕃殖に従事すると茲に數年間種々の難苦を嘗め
實地經驗を過て遂に本書を編纂するの結果を得たり其飼
養容易に且つ飼料廉價に反して得る處の利益多きは家畜
中兎に如くものはなし今左に利益の概略を記算し以て讀
者の參考に供せん

夫れ農家に於て母兎十頭を養ふは難きに非ず僅かに休憩
の寸餘にて足るものなり今假に十頭の母兎を養ふとし算
すれば此の十頭の母は一ヶ年間に七百二十頭の仔を産す
可し(是れ母兎の實仔を算するなり)是れを一日一頭宛として
一年に三百六十五頭を屠り殘れる者三百五十五頭あり是
れを販賣するに一頭の價金二十錢と見積りて此金七拾壹
圓となり前に屠りたる皮三百六十五枚あり一枚價金五錢
と算して此金拾八圓貳拾五錢となる合計金八拾九圓貳拾
五錢の收入あり此れに對して飼料の支出を問へば僅かに
田野の雜草庖厨の殘菜等に過ぎず實に雜草殘菜以て黃金
に化すと云ふも肯て過言に非ざるべし
斯の如き利益ある小獸なるが故に西洋各國に於ても農家

は勿論片隅たる一孤村隆盛なる大都會に至ると雖も普く飼育せざるは無く恰も本邦農家等にて家雞を養ひ雛兒及び卵肉等を賣買するが如く其の兎肉を常食に供し毛は織物の材料となり皮は種々の用具となり尿尿は肥料となし一として無益に屬するものに非ず矧んや近時殊に肉食の益盛なるに際し之れを飼育すれば内に在ては獸肉の缺乏を補佐し外は海外の輸入を防ぎ以て國の經濟を補ひ進んで一國強富の基礎たる疑を容れず其に方針を飼養者に示す他に非ず經濟的の投機者法に感ぜられ其の實用利益のあるところを失ふが如きは予の極めて固執する所なり今下に種類を類し其の繁殖等の方法を下

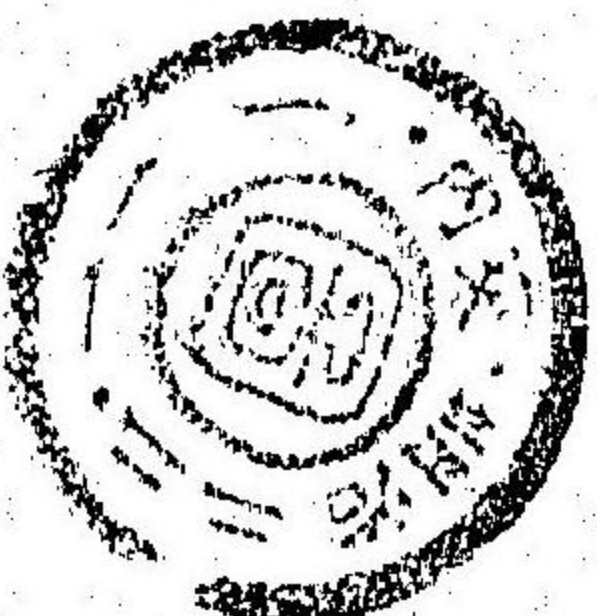
明治廿二年十月

編者識

目次

種類

- 一 「ポーラ」種又は「レップイズチミツズ」
- 一 「ノーゼェルン」種又は「アメリカン、レップィウス」
- 一 「ウード」種又は「グレイラビット」
- 一 「マース」種
- 一 「ツローブリッジ」種
- 一 「ジャケッス」種
- 一 「コンモン」種
- 一 「ウァイルド」種
- 一 「アメリカン」種
- 一 「アングラ」種



- 一 「ベルギアンポール」種
- 一 「ダッチ」種
- 一 「ホワイトダッチ」種
- 一 「ヒマラヤアン」種
- 一 「パプゴール」種
- 一 「ポリイス」種
- 一 「シベリヤアン」種
- 一 「シリユールクリム」種
- 一 「パタゴニアン」種
- 一 「ゴールデンパタゴニアン」種
- 一 日本野兎
- 一 無垢兎

- 一 翁兎
- 一 達摩兎
- 一 垂耳兎
- 一 珍眼兎
- 一 笑引種
- 一 沿革及性質容貌
- 一 兎舎の事
- 一 兎舎の位置
- 一 兎舎構造並圖
- 一 穴舎の構造並圖
- 一 放牧飼並圖
- 一 箱飼の事

- 一 轉置箱飼の事並圖
- 一 飼料の事
- 一 配偶の事
- 一 孕兔鑑定の事
- 一 巢造分娩の事
- 一 蕃殖の事
- 一 乳母の事
- 一 兔仔離乳後の穴飼並圖
- 一 兔仔成長期の事
- 一 兔の睪丸切斷法
- 一 兔天壽の事
- 一 肉及皮の事

- 一 皮剝及割烹の事並肉分析表
- 一 疾病及治療の法
- 一 咳嗽原因及治療
- 一 涎病の原因及治療
- 一 便秘の原因及治療
- 一 胃弱病原因及治療
- 一 下痢原因及治療
- 一 兔毛感化の説

目次終

實用兎飼養新書

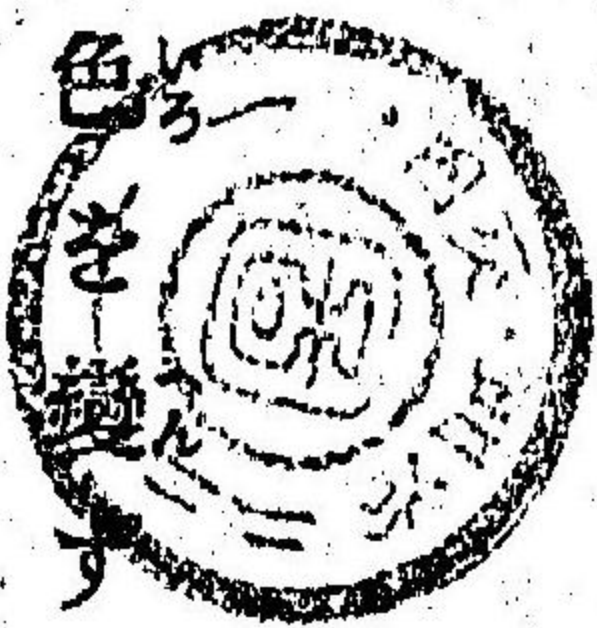
井上龍太郎著述

種類

「ポーラ」種又は「レップイヌチミメ」 Polar Hare.

此種は米國北方に多く氣候の變換に因り其毛色は夏日は其毛色光澤ある淡黄及び鳶灰色にして耳は純黒なり冬期に至り耳の端に黒色を殘して全軀白色となる軀の長さ凡二英尺ありて其量八九磅より十一二磅あり「ノーゼールン」種又は「アメリカン、レップウメ」 Northern Hare.

此種は「ニューメキシコ」及び「ニューヨーク」の近地に多くあり近時は四種に分かれて其状態は米國の兎より英國の野兎に彷彿たり其毛色夏日は淡藍に黄及鳶色のもの



あり冬期には耳の廻り細く黒色にて縁を取りて他は全
く白色となる東方及び中央諸國に於ての兎は其變色甚
だ微少なりとす

「ウード」種又は「グレーラビット」 Wood Hare.

此種類は合衆國亦は加奈陀地方に多く飼養す該種は人
に恐るゝを甚だしく通常兎の如く穴居をなさず短かき
尾に幅廣き耳を有し其毛色は黄色に鶯色なり

「マース」種 Marsh Hare.

此種は常に光澤ある花色なり小川に接したる藪草の繁
茂したる沼地に棲息す故に「マース」則ち沼兎の名稱あり

「ツローブリッジ」種 Trowbridge Hare.

此種は米國産の兎より其躰小なり尾は立ちて耳長く毛

は黄色及び鶯色なり「ホルトクルーク」の海岸に接したる

「ジャケッス」種 Jackass Rabbit.

此種は「メキシコ」國大戦争の時全國軍隊の兵卒某氏野兎
を捕へて食したるに其味美なるを感賞し直に隊長に告
げて曰く此兎は美味なるのみならず耳及び躰大なり實
に兎中の馬なりと云ふ茲に於て始めて驢馬兎則ち「ジャ
ケッス」の名稱を付したり躰格大にして狐に均しく丈けは
一尺九寸乃至二尺四五寸のものあり以て其著名なるを
知るに足る耳の長さ頭の三倍あり頸の上に暗色鶯色の
横條あり又黒條を耳の元より臀迄背筋を通じて尾端に
て終る横腹に濃き淺黄と黒との斑點あり咽喉の下部よ

り下腹迄白色なり多く「メキシコ」の海岸なる「ニューメキシコ」の南位地方に棲居し又「カリホルニヤ」の地方太平洋の海岸に多く繁殖せり

「コンモン」種 Common Hare.

此種は皮の色赤くして厚く耳は黒色にして其大さ殆んど躰と平均を失ふが如きものなり其耳の長きと頭より一英尺計りあり後足長くして眼球突出せり背部は灰色鶯色にて黄色の横條を雜へり腹部は白く頸と胸部は黄白なり尾の上部は黒く下部は白く此兎の跳走するときは尾を上げて下部の白色を表はすを以て美觀あり或時は毛色純黒を帯ぶるとあり此兎は他の白色兎の原種なり

「ウァイルド」種 Wild Rabbit.

此種は長毛を以て軟らかき皮を被ふ些しく「アンゴラ」種に類似せり然れども性質は猛く慧くして牧場中にあつても常に山野に棲息する如く自由に跳躍奔走し一風異様なる滑稽を以て遊ぶを好む實に其奇なるは遊戯に於て充分人目を樂しませり此牧場に他種の兎を放てば彼は可笑しき仕方を以て他種の兎に親しむなり

「アメリカン」種 American Hare.

此種は他の家兎の如く穴居するとなし性質弱く憂心するも最も深きが故に常に平坦なる地に横臥して密着し尙其上より泥土及干草を被せ置くが故に一見して其兎なるや否哉を明知すると能はず降雪の時は雪中に喜遊

し其雪中に在ては又雪を避けるの道を知らず僅かに前
後に轉動して面部の雪を避けるのみ尙大雪降るときは
弓形の土室を作り殆んど風通の孔の如き形ちをなせり
兎此穴室にあるときは難を避け安心せるを以て此穴室
を名附けて兎國と稱するなり

「アンゴラ」種 Angola Hare.

此種は細長の毛を生じ毛色種々ありて其の長さ五六寸
耳は短くして立ち性質穏和なり仔を育すると能く一回
の分娩産仔平均五六頭なり牀は強健と云ふには非らざ
れども亦た弱からず「アンゴラ」地方の産なるを以て其の
名稱あり肉は柔軟白色にして佳味ならずとも毛附皮に
は良品を得るなり

「ベルギアンポール」種 Belgian-pol Rabbit.

此種は「ベルギー」の原産にして佛蘭西に多く飼養す牀格
大にして重量拾斤あり食用種類中上等の者なり其の毛
色は淡褐色に白黒の交りなり腹部及び尾の下白くして
耳長からず顔及び頭部圓く軀軀通常にして肉佳良なり
産仔毎回八九頭巢造り巧みにして産仔の發育良く性質
静にして且つ強健なり

「ダッチ」種 Dutch Rabbit.

此種は阿蘭陀の原産にして米國に多く飼養す牀格小に
して美麗なり毛色は黑白及び鶯色のもの多く且つ足と
首の間に白色顔の中央に縦に白條あり佛國にて之れを
「ニールカール」と云ふ巢を造ると巧みにして仔を育すると

に長じたり躰強健にして蕃殖最も早し

「ホワイトダッチ」種 White Dutch Rabbit.

此種は通常「ダッチ」種に異なるをなし性質静和にして多仔を産す耳短く躰軀も又短く顔丸くして赤眼白色なり

「ヒマラヤアン」種 Himalayan Rabbit.

此種は「ヒマラヤアン」地方の産出にして躰強健性質穩和なり躰量八斤白色にして鼻端足及び耳等の尖端黒色なり仔の發育速にして産仔最も多く耳及び脚短し肉佳良なり

「パンゴール」種 Pungole Rabbit.

此種は耳垂れて長く大なり其根は細くして其先廣がり毛色は鼠色及び黒白の斑點あり空色に白黄の交りあり

躰弱にして産仔少なく生仔の發育宜しからず躰大にして其量十四五斤なるものあり顔細く尖がり躰軀長く脚

も長し肉味柔軟にして佳良ならず

「ポリイス」種 Police Rabbit.

此種は躰格小にして其量四五斤あり性質穩和にして且つ強健なり産仔は毎回七八頭を産す仔を育するに長じ毛色は種々あり

「シベリヤアン」種 Siberian Rabbit.

此種は魯西亞の産にして能く寒暑に堪へ性質活潑にして躰強健なり産仔發育最も宜し毛長くして毛色は白及び鼠色等種々あり躰量は四斤より八斤のものもあり

「シリコーンクリーム」種 Shirri-cream Rabbit.

此種は「シャム」の産にして性質活潑且つ強健なり躰量七八斤より十斤あり毛色黑白の小斑點あり顔面尖り躰軀及び脚も長し産仔多くして仔育に長じ肉味佳なり

「パタゴニアン」種 Patagonian Rabbit.

此種は南亞米利加極南地方の産にして最も善良の種類なり躰量は八斤以上のものあり耳通常にして毛は白黒の小斑點及天色茶褐色等種もあり性質穩和にして躰質健強能く寒暑に堪へ巢作り巧みにして産仔多く仔育に長じ仔の發育最も良し肉味佳良なり

「ゴールドンパタゴニアン」種 Golden-patagonian Rabbit.

此種は通常種に異ならず唯其毛の金色にして美なること肉赤色にして其味最も佳良なることに因り貴重せらるる。

ものなり食料兎中第一の良種なり

日本野兎

山林原野に產生する兎は其性鋭くして躰質弱く東南斜なる平原向陽の處に穴を穿ち巢を作り一年に二回の分娩をなす其産する仔は毎回二三頭より多きは五六頭なりとす三歳以上のものは躰量十斤なるものあり肉は赤色にして味可なりと雖も其肉に一種の臭氣あり皮は滑めして弱く毛附皮には適せず又是れを家兎となすには甚だ難し此の性弱にして産仔少なきが故なり是れを改良するには此種の牝兎に「ペールギアンホール」種の牡を以て交尾せしめ改良分娩第五回なさしめば完全無欠最良の家兎を得ると疑ひなきを信ずるなり

無垢兎

無垢と稱するものは細長の毛を生じ其性質穏和にして殆んど「アンゴラ」種に類似せり之れ果して「アンゴラ」の雜種なるか將た箕引種と他種の雜種ならんか

翁兎

此種は紅眼白毛にして耳鼻四肢及尾等の尖端茶褐色を現はしたるものなり之れ則ち「ヒマラヤン」種の血流を曳くものならん

達摩兎

達摩と稱するものは全身白色にして眼色は水色なり斑點の者より稀に產生するものなり故に其仔は斑點毛を生ずるを常とせり然りと雖も此種をして仔孫四五回の

垂耳兎

改良を計れば必ず一種を作り出すと疑ひなからん

垂耳と稱するものは其耳長大にして体格も亦大なるもの多く之れ則ち「パップゴール」種の雜種ならん此の血統を曳くものは其耳左右に垂るゝに非ざれば一方に轉倒するものなり煽り耳と稱して耳の央ばより垂るゝものあり亦天地と稱して片耳は立ち其片耳は倒れたるものあり此種は産仔常の如くなるも仔育甚だ宜しからず

珍眼兎

珍目なる者は世に珍らしき大眼なるを以て此稱あり眼珠突出して其の光り薄く曇れり通常の眼目に比すれば殆んど三倍餘の大きさありて一見せを鏡きが如くなれど

も其性穩和柔弱のもの多く原産は東京にして明治六年中愛兎家某氏の家に生産したるものなり其原種は詳かならざれども海外より舶來せしものなると必せり此變生は眼病の遺傳よりなるものと云ふ

箕引種

此種の原因は大和の國にして今を去ると五百餘年前則ち永和年間該國宇多郡某村の産なりと云ふ体格大にして全身細長の美毛を以て覆ふ毛の長さ一尺餘あり其色白及天色のもの多く性質健康にして多仔を産す最良の種なりしが只恨むらくは此種をして毀失せしと是なり去る明治五六年の頃兎の流行に任じ投機者の手裏に陥り數多の種類と配合なせしめ雜種を作り終に此純種を

失ふに至りたり明治初年頃迄は各地に此種の兎を見るところあるも今は全く其純粹種血統を絶つに至る誠に遺憾の極と云ふべし
其他純色のものあり或は縵紗あり帽子あり襟巻あり胴巻あり三色毛等數多の名稱は何れも毛色に因て附したるものにして其種類の判別なきが如し是等の原種は明治五六年の頃本邦に玩弄兎流行に際し多く支那人の手に據り米國より舶來したるものにして其中食料に適要の種を偶々見るとあり從來飼養する兎類は南京兎と稱する種屬にして今は他種と其血統を混雜し純粹の種類甚だ稀なりとす
沿革及性質容貌

總て兎の原種は素と一種より分殖せしものにて今日に在りては凡そ四十五種より五十種迄に類別せらるゝなり其原とは南亞米利加にて夫れより北米及び西班牙亦是メキシコ並に「グアトマール」地方に傳延蕃殖せしものなり古代に於ては之等の兎は「アイルランド」より「グリンランド」及び北方の大洋を越えて遠く隔絶したる我日本國にまで傳殖し來るものなり而して「ラピツ」種は「ヘヤー」種より出づる處のものにして南米及佛國の「セブレ」島北米「ハバースコウシヤ」地方の風土に馴れて傳蕃せるものなり「ラピツ」は四足獸中最も穩和なるものにして素原は連綿たる「ヘヤー」種をして種々の馴練と改良とを以て終に今日の如く變換せしものなり家兎及野

兎は二箇の前齒を持ちたる齧獸類の一にして體長く後足も長し頭部彎曲にして双眼圓るく耳は長大にして前足には五指を備へ後足には四指ありて尾は短かくして立ちたり性質敏捷にして疾く厚き軟らかき毛皮を被れり之等の種屬は軟らかき草を好み且つ木葉樹皮等總て食せざるものなし兎は輕動を自在にするの特性ありて靜かに歩行する時は甚だ鈍ぶく見ゆれども其跳走する時は極めて迅速なり亦回轉をなすと瞬間自在にして其速かなると實に驚くべきものなり

兎舎の事

兎舎の位置

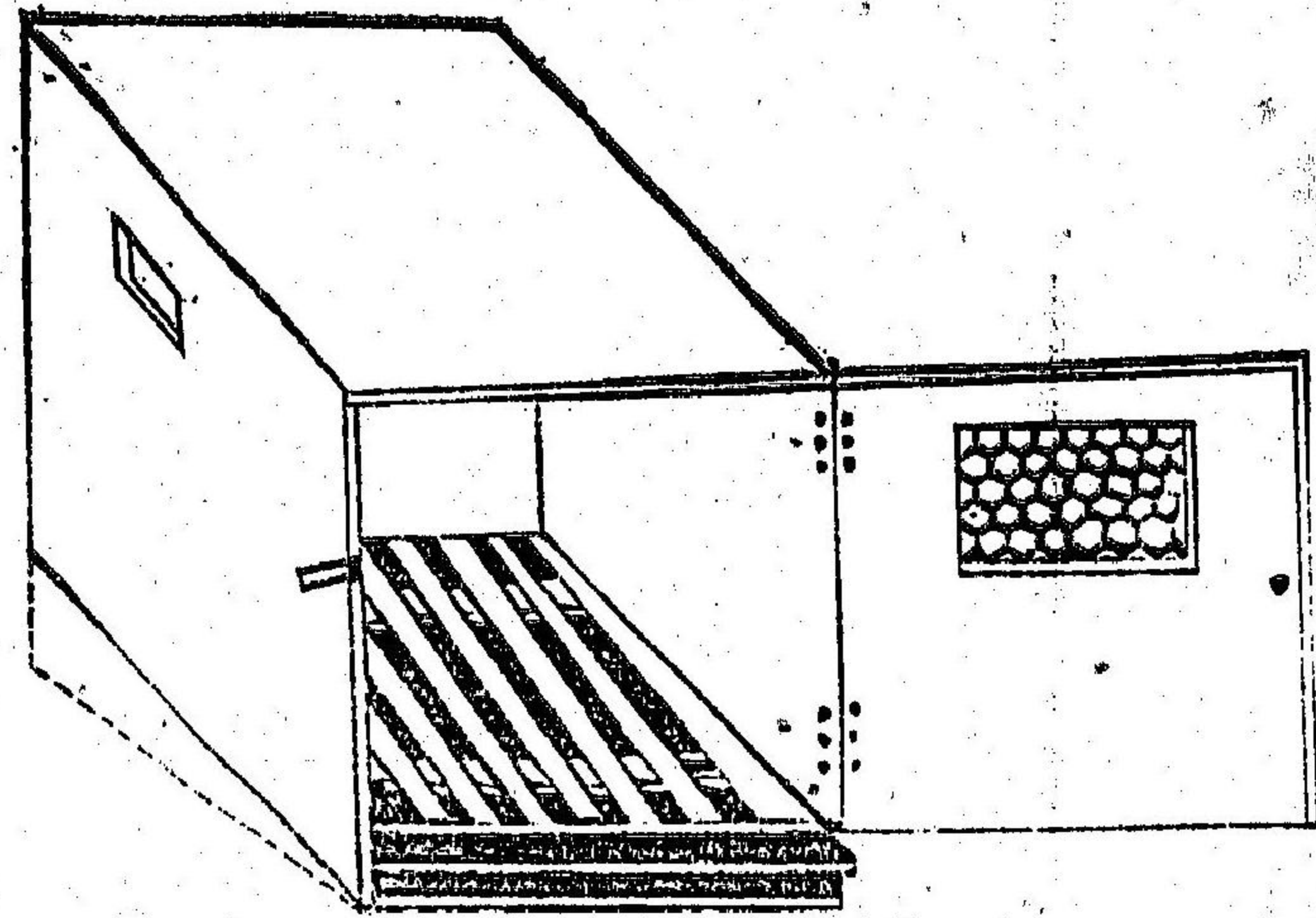
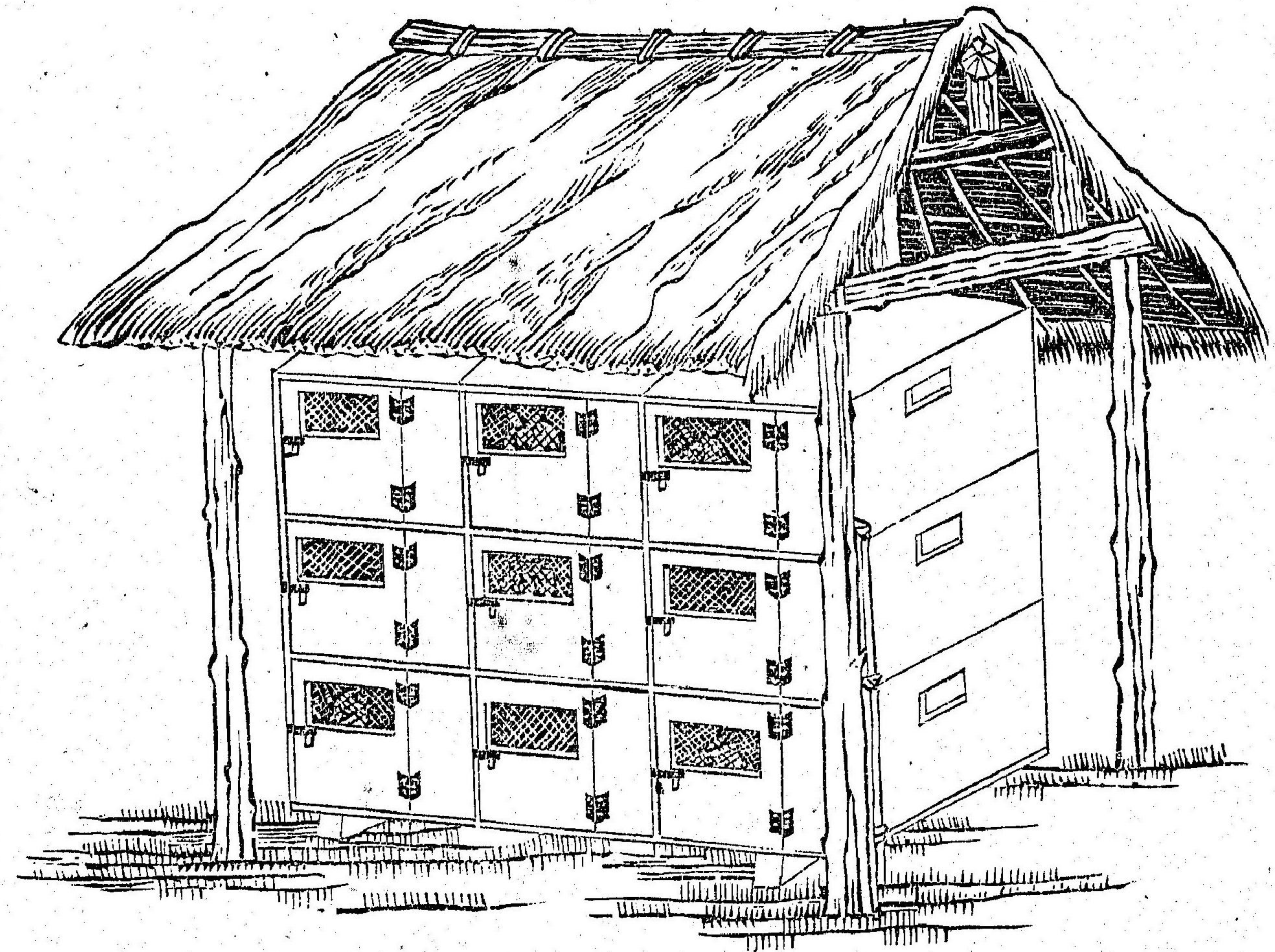
兎舎は乾燥にして向陽宜敷處を撰び暑中は乾燥にして

背陽冷涼の處を宜しとす

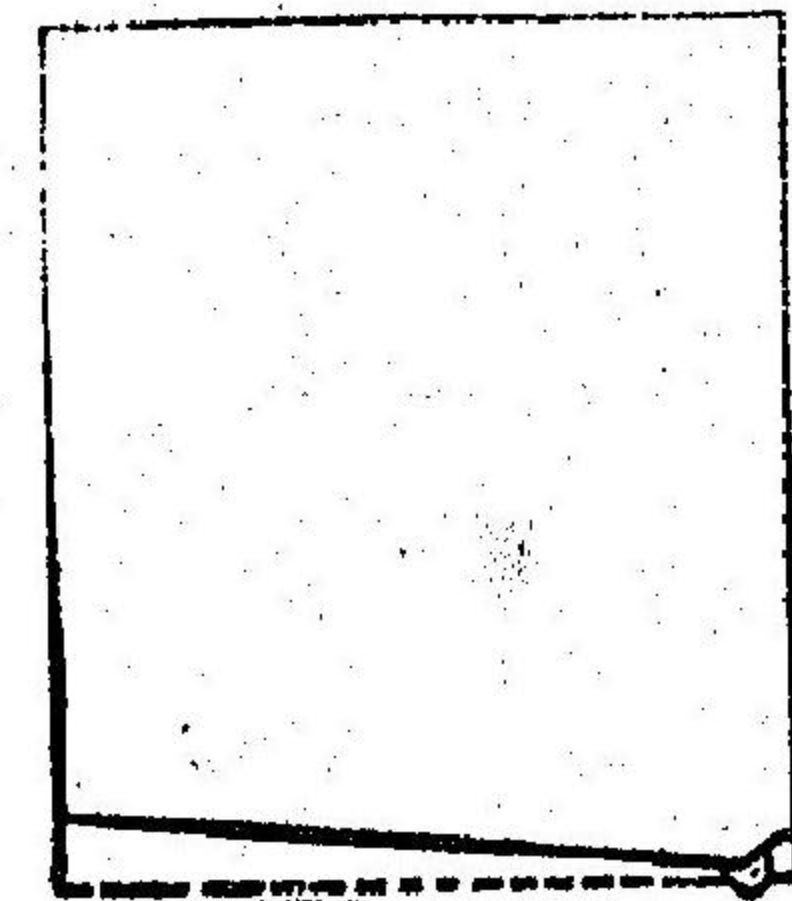
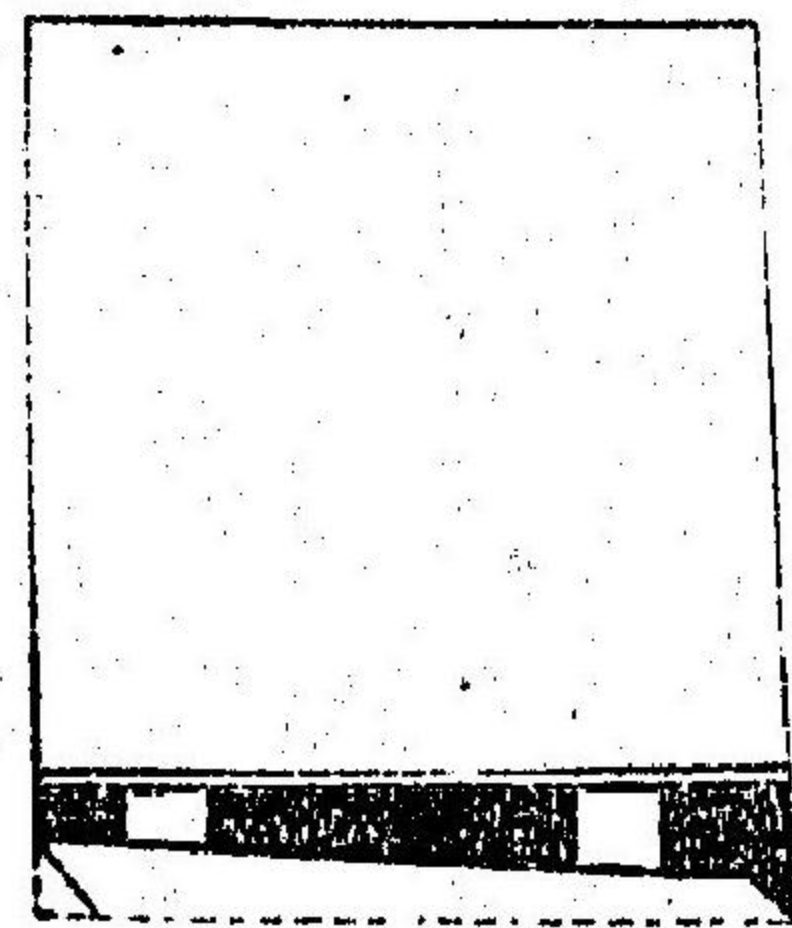
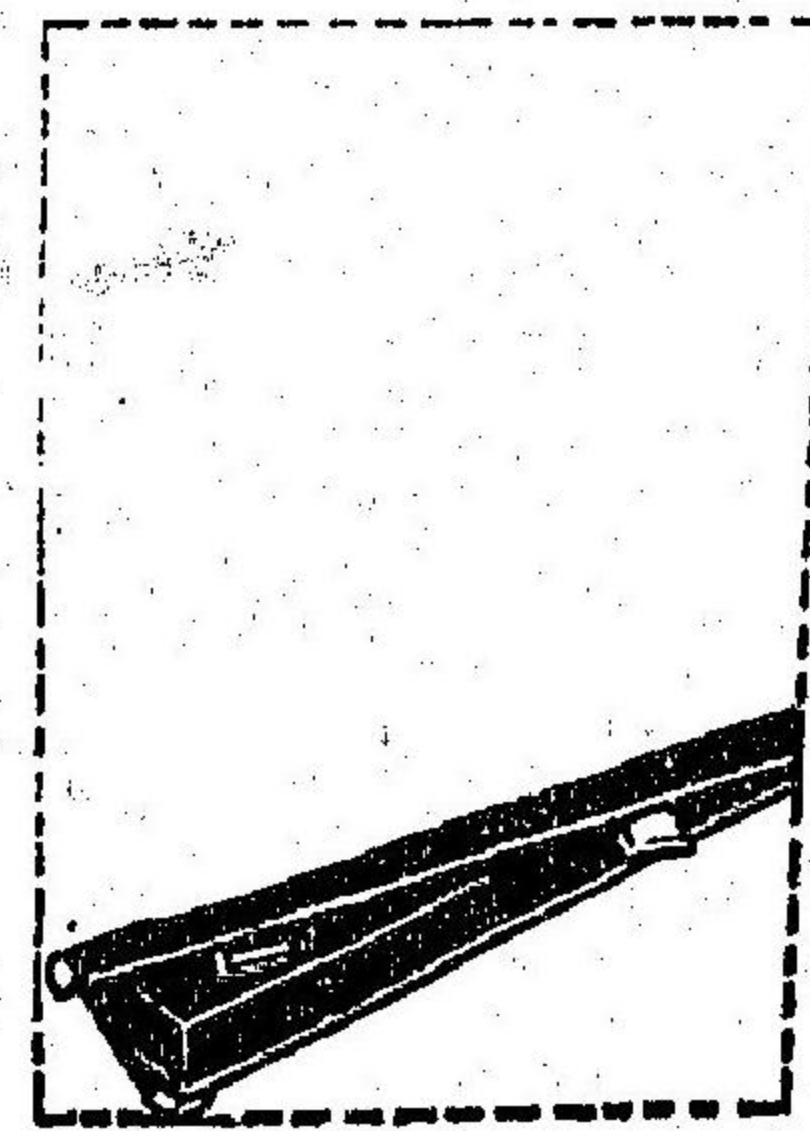
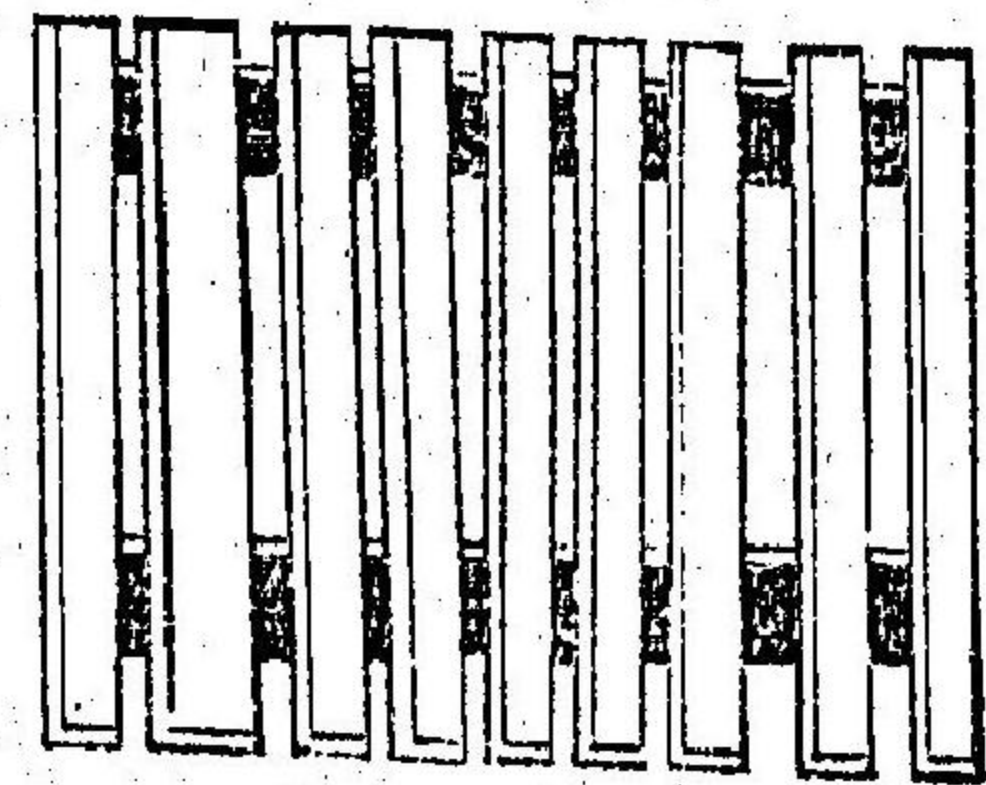
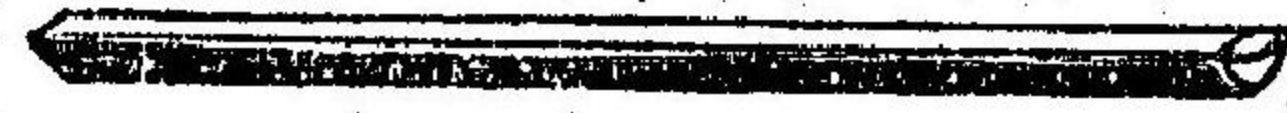
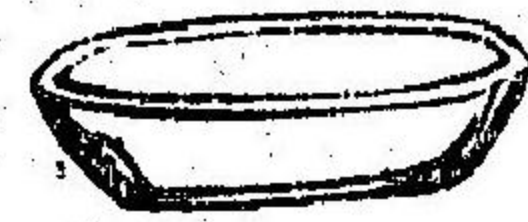
兎舎構造並圖

兎は牧場に放つを宜しきと雖も母兎は必ず舎飼するを
真とす其舎の構造は譬へば百頭の牝を飼養するときは
牝十頭を飼養すべし合せて百十頭を入れるべき室を作
らざるべからず一頭の舎は奥行二尺五寸間口三尺に
して底板を斜めに張り其上に重ねて下水板を入れ此下
水板は幅二寸の板にて三分目を透かし打にし底の中央
に尿水流を取る爲め通樋を受け前の戸は蝶つがひにて
釣込開き戸とす戸の中央に七寸に五寸の窓を明け金網
を張り付片隅に草架を打付け青草及び乾草を與る用と
なす而して右百十頭を入れるには棟行十八間半として

兔舍圖



餌鉢



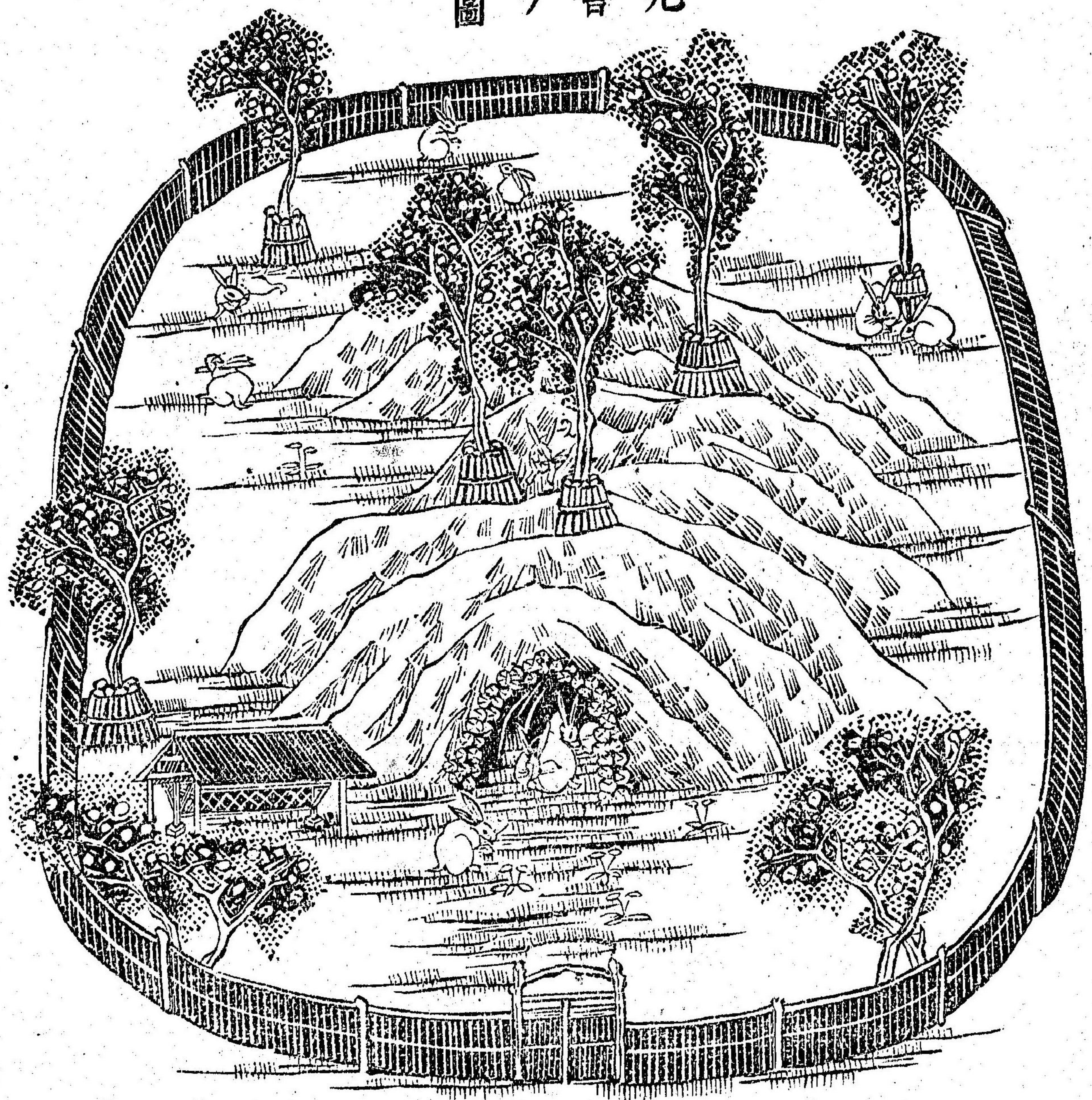
是を三十七ヶ室に區切りし三重になす則ち三十七室三
通り百十一室となるなり

是れにて牝百頭を此室にて分娩なさせしめ牡も又此室に
て養ふべし今此の概圖を製して右に示す

穴舎の構造並圖

穴舎の周圍は竹木を以て埒を廻らし中央に穴舎を作る
べし場所は成るべく乾燥の地を宜しとす其穴舎の譬へ
ば面積百坪の中央に三間四方のものを作るを適當とす
其構造は堅石及び煉化石亦は厚板を以て作るも良とす
と雖も容易輕便になすは麥酒樽及び砂糖蜜の明樽を横
伏せに埋め込み近邊の土を堆積して小高き丘となし而
して其丘の南方に向ひて兎の出入口を附し其出入口の

兔舎ノ圖



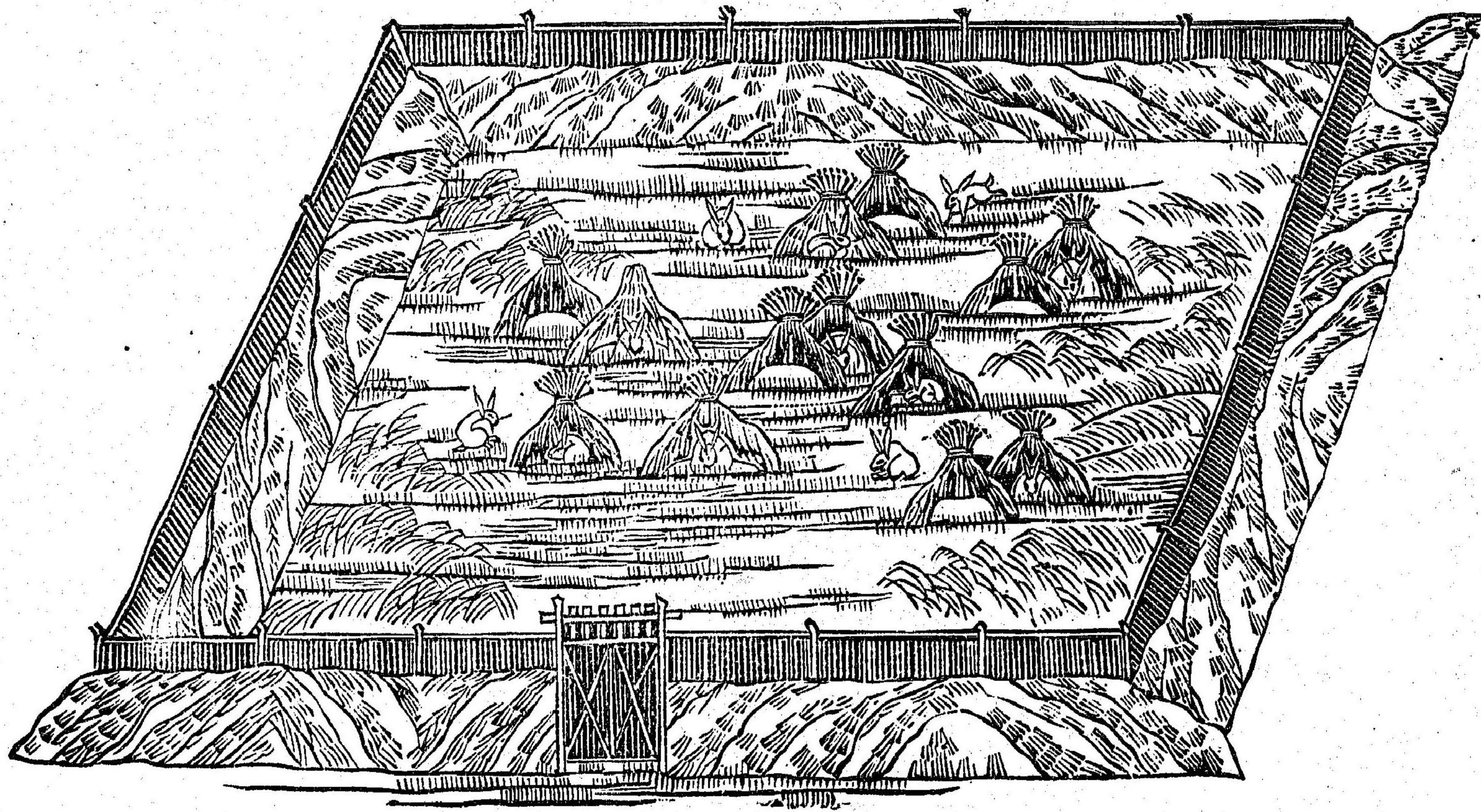
廣さ縦六寸横一尺となすべし亦た前面は平坦ならしめ
 茲に草架を設け冬日は乾草及び茶類を與へ夏日は青草
 を與ふるの用となす又丘上には芝を植附け土壤の流下
 するを防ぎ飼場には牧草を蒔き嫩芽出れば常に是れを
 食はしむるなり亦大暑炎熱を防ぐため樹木を植ゑ附け
 就中苹果及び梅桃等の冬日落葉すべき菓樹を良とす是
 れを植るに木の根本土際より高さ凡そ二尺計り杉皮或
 は割竹にて包み若しくは武力にて圍むべし然らざれば
 兎は其植ゑたる木の皮を食ふて終に枯凋せしむるに至
 るなり然して亦此の穴舎に放飼するや兎は快然跳躍奔
 走して或は丘に登り或は穴に入り自由自在に遊戯し見
 るも快樂の思ひあり是れを庭前の眺觀となせば誠に可

憐の動物なるを感ず斯の如くなるを以て一層の風致を
加るなり尙坪外に兎の遊出せざる様注意すべし亦兎は
極めて清潔を好むものなれば穴舎中に群居をなすも若
し群中の一頭誤て舎中に糞を成すとあらば群兎舉て其
尿を舎外に押し出し舎内を不潔ならしむるをなく亦た
兎は他獸の如く猥りに尿をなすものにあらず坪の片隅
に便所を定め群兎皆を爰にて尿尿をなす故に堆積する
ときは掃除に注意すべし穴舎一坪に兎三十五頭を飼育
するを得べし

放牧飼並圖

放牧は東南斜めにして雨後の水除け宜敷く且つ乾燥の
地を撰み最も良草の生茂したる地質良きを得ば隨て利

放牧場ノ圖

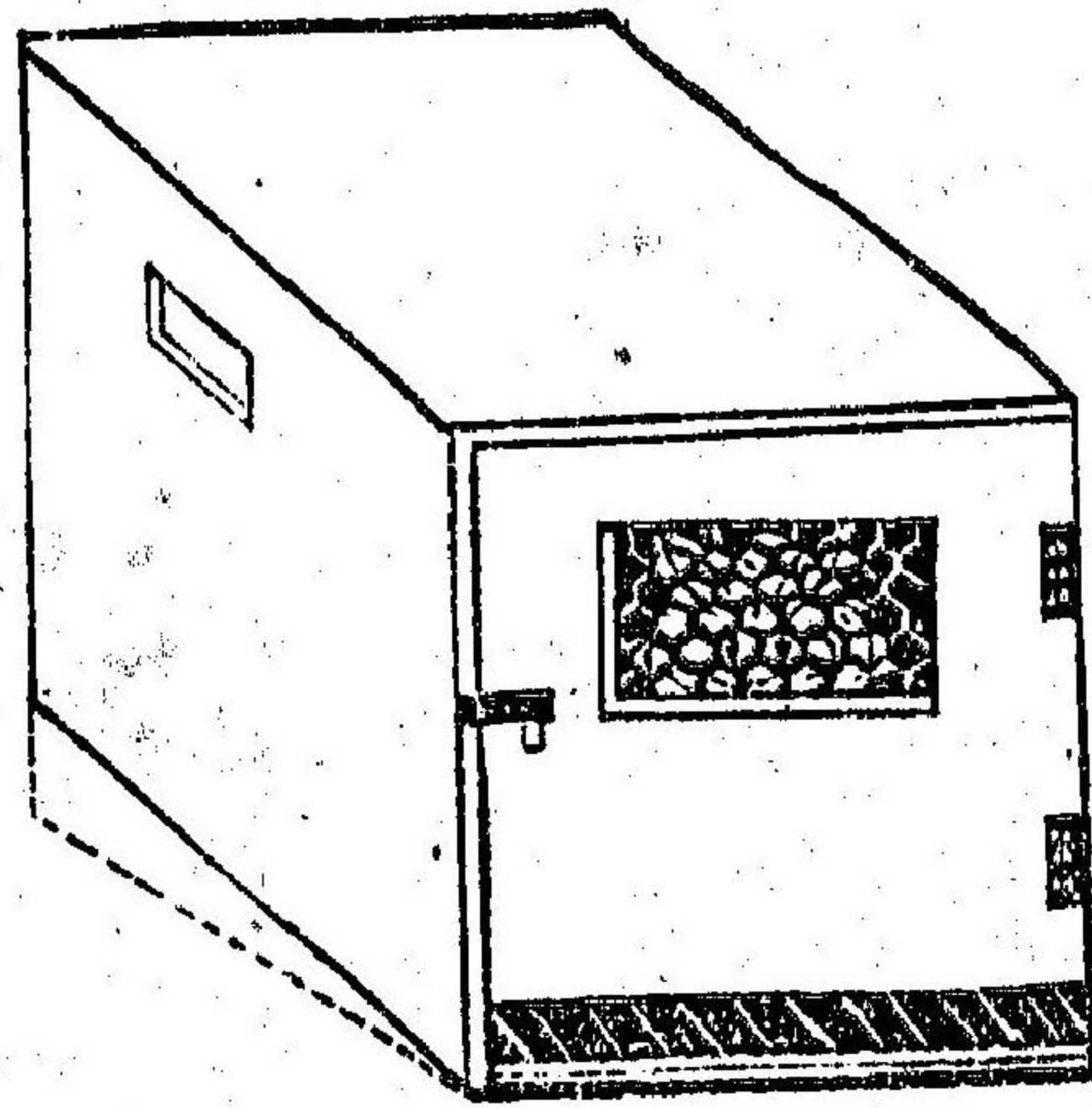


益も大なりとす放飼するには高さ四尺位の土堤を築き廻らすべし其中心を竹木にて區限りをなし譬へば第一區第二區と順次六區計りを作り置き而して分娩後離乳の兎を此の牧場に放つべし其順序は假りに母兎百頭となし是れを全時に交尾せしめ三十日間を経て分娩すれば二日を経て其母兎を亦第二次の交尾をなさしむ而して廿七八日を経て先仔は離乳せしめて第一區の牧場に放飼す其仔數は母一頭に付八頭の仔を産するものとすれば則ち八百頭あり是れ第一區は八百頭の牧場と知るべし翌月は第二次の分娩をなす此時前全様の取り扱ひにて第二區に放つべし是も又八百頭の牧場なりとす順序既に斯くの如くにして第五區に至れば最初に放し

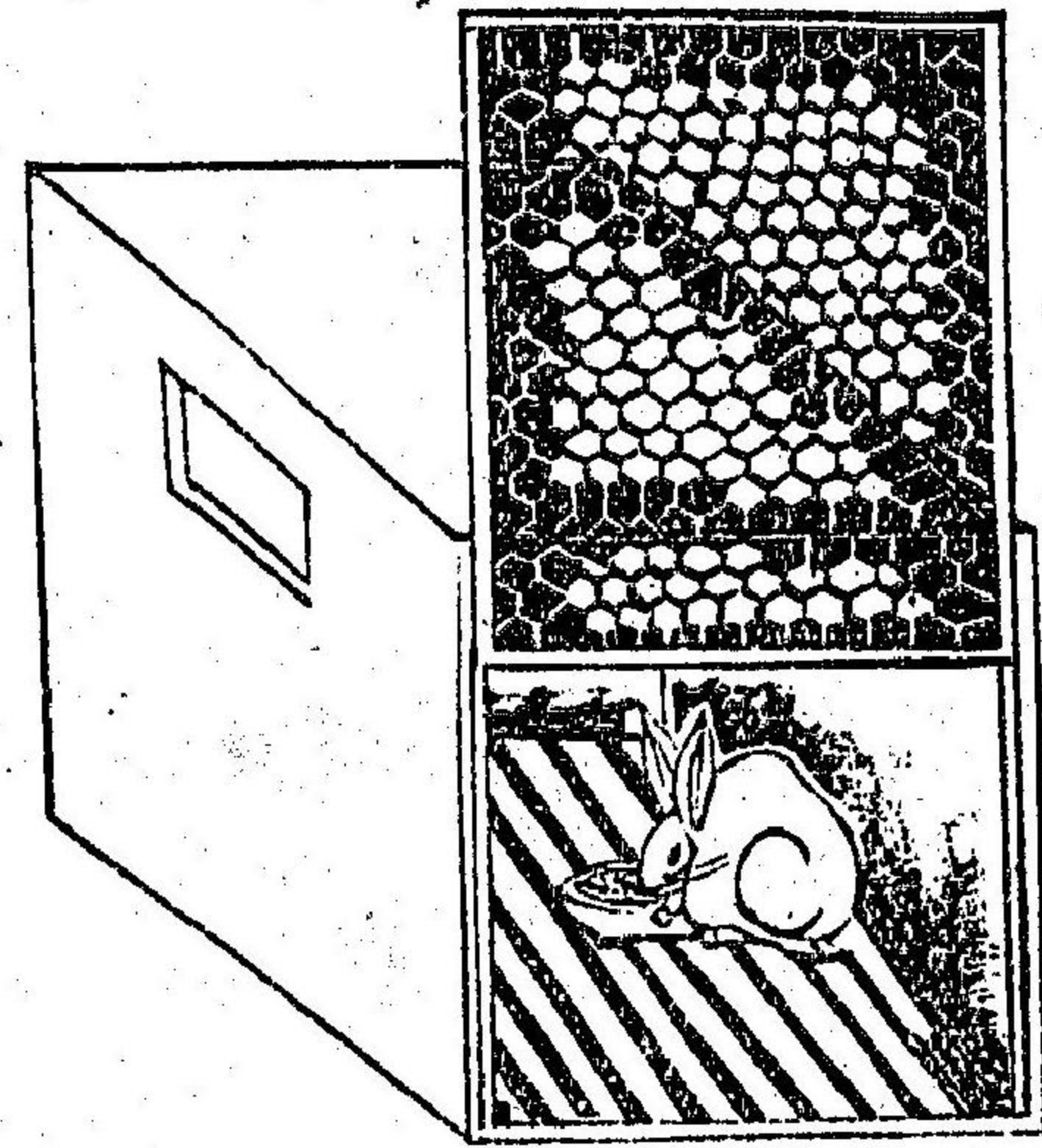
たる者は既に生後五ヶ月を経過せる故順次肉用に販賣すべし牧場は向陽宜敷を得常に風の烈敷處は宜敷からず反別頭敷の割合は夏草繁茂の地なれば我四反歩に八百頭を放飼するを得べし亦他より苧草を與ふれば一反歩に付四百五十頭を飼ふも差し支へなきものとす兎を放牧するや各自穴を穿ちて穴居の豫備をなす故に乾燥の地を撰むと肝要なり

箱飼の事

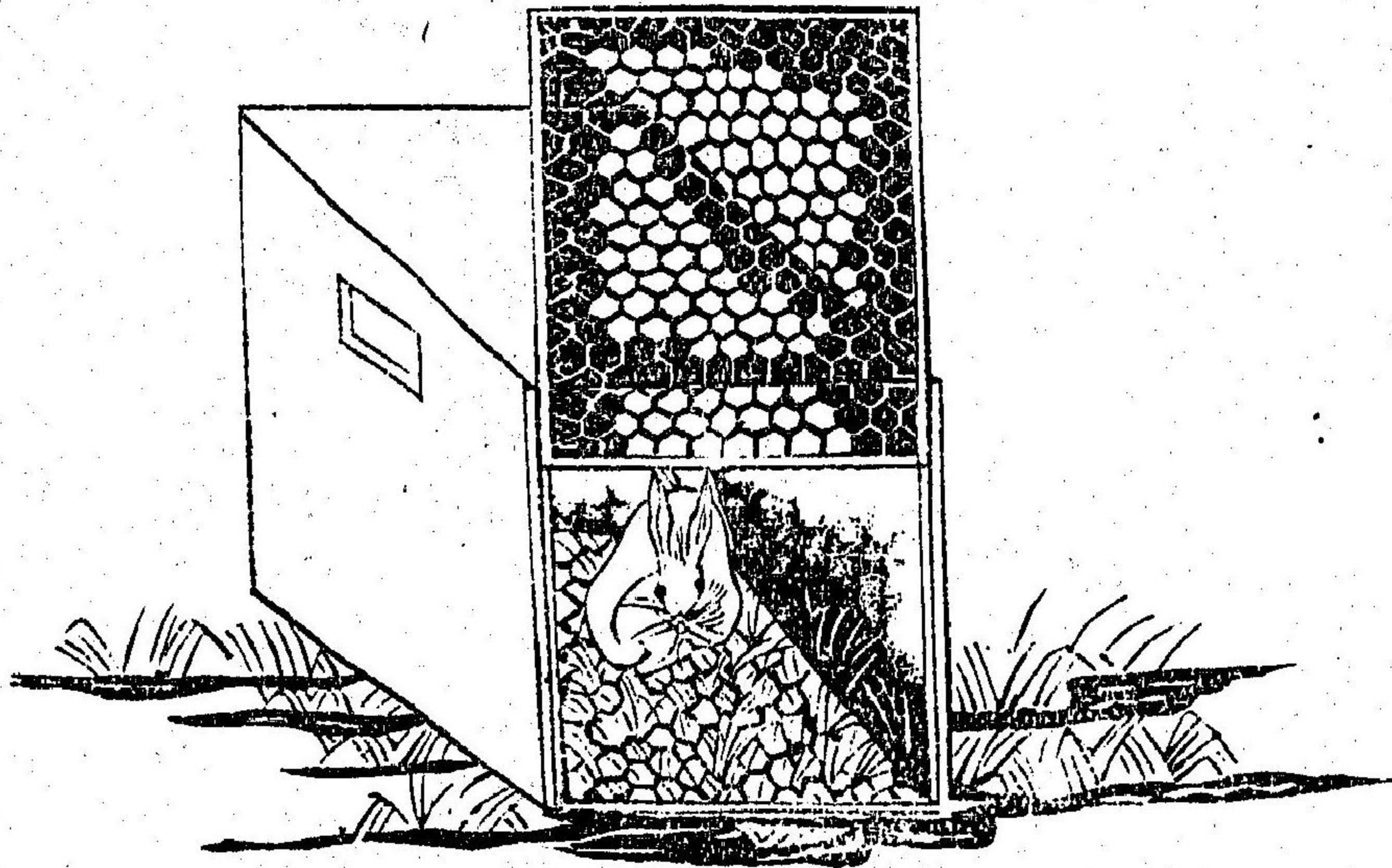
箱飼は兎舎構造の處に粗相同じ西洋にては麥酒の明き樽を用ひ是れを間口に並列して飼養するも本邦にては之れに代ふるに茶箱を以てするを便なりとす茶箱は長さ三尺幅二尺高さ一尺五寸杉の六分板を以て之れを作



圖ノ飼箱常通



圖ノ飼箱置轉



轉置箱飼の事並圖
 歐米に行はるゝ一種の飼養法あり其法は菓物の明き箱
 其大さ縦て三尺横二尺高さ二尺位にして其箱の底部に
 粗目の鐵網を張り横部に上げ戸を附し置き此箱に兎一
 二頭を入れ庭前の芝草路傍の軟草等の繁茂する處に持
 ち行き生草の上に置けば網目より挿入する處の芝及び
 生草等を以て終日の食料に充て是れを日々各所に轉置
 する者なり其概圖を製して左に示す
 場ばばに放つはなつつもよよし
 せせばば離り乳にゅうの期きに及およんで其仔こを他たの箱はこに移うつすか亦または放飼はな
 葉は或あるは乾草かんそうを敷敷入れ尿うは一週間毎まいに之これを掃除そうじゆし分ぶん婉べん
 れり其底部ていぶに小穴せうけつを穿うちて尿せうべんの通流つうりゅうに便べんし箱はこの中なかには
 せせば離り乳にゅうの期きに及およんで其仔こを他たの箱はこに移うつすか亦または放飼はな

飼料の事

飼料より來す處の利害得失は最も大なるものなり依て深く之れか點に注意せざるべからず兎は草食獸の一つにして樹木の嫩葉就中檜檜及び松葉杉檜等其他乾芻及び青草は殆んど食せざるものなきが如し亦菜園の屑餘庖厨の殘菜皆可なり然れども是れを與ふるには水分の多き野菜は二三時間日光に晒し而して水分を乾かし與ふるを良とす水分多き菜類及び生薑を與ふれば下痢病に罹ると多し最上の食物は雪花菜にして是は多量與ふるも妨げなし菜根甘藷馬鈴薯燕菁等を與ふれを乳汁の分泌を増加せしむるの効あり食物は一日三回に與ふるを良とす母兎の食物はなるべく善良なるものを與ふべ

し玉蜀黍、穀糠及び麥の割粉、其他燕麥、稗麥等を夏とす。冬日麥を與ふるには、其麥を發芽なせしむ。其の發芽の法は、左の如し。先づ四五日間、水に浸し、水氣麥心に入りて、麥心中、水色に變じ、充分濕ひたるとき、其麥を籠に揚げ、水を去り、後ち之れを板間に厚さ五寸計りに擴げ、土間なれば、莖を敷き、全様に擴げ、上より莖を二枚重ねにて覆ひ、晝間三回、夜間一回宛、能く反轉攪拌す。而して、稚根の六七分位、伸長し、幼芽發軔より一分位、伸長せるを度として、桶に移し、水にて冷し、又籠に入れ、水を去りて、厚さ一寸計りにして、莖に擴げ置くなり。一斗の麥を發芽すれば、其量凡三斗となる。是れを一頭の母兔に一回に一合宛を與ふるを適度とすべし。亦佛國に於ては、兔を飼養するに五月より

配偶の事

十一月迄七ヶ月の間は、葡萄の新芽及び葉枝を與へて、他の食物を一も與ふるとなし。而して、其兔は、臍肥滿且つ強健なりと云ふ。予も、又是れを與へたるに、果して好結果を得たるとあり。實に佛國の隆盛は、偶然にあらずと雖も、多くは葡萄の利益に浴するものならん。嗚呼、眞に佛國の葡萄化して、兔となり、兔亦た化して、衛生を助くるの神となり。終に富國強兵を以て、其名世界に轟然たり。

配偶の事
 牡兔一頭を以て、十頭の牝に配合するを適度なりとす。而して、其種牡は、臍質健全にして、其骨格及び容貌の宜敷を撰まざるべからず。亦牡は六ヶ月を経過せざれば、交尾せしむるも、其功なし。若し六ヶ月未滿の牡を配合して、其仔

を得るも必ず弱にして發育充分ならざればなり交尾を
 なさしむるには牡兎の室に牝兎を放入すれば牝の發情
 充分なるものは牝より牡を抱き或は狽れて交尾をなす
 其交尾に先て陰部に唾を塗り付け交尾せしむ其度は二
 回にて足れりとす若し發情熟すと雖も交尾を避けて牡
 に接するを嫌ふものは尾端を糸にて結び脊中より頭
 上に引き片手を腹の後部に入れて陰部を持ち上げ交尾
 せしむるなり猶ほ注意すべきは交尾を同時に於てする
 と之れなり何となれば全時に産したる仔兎は是れを一
 所に置も相争て傷害するとなしと雖も分娩の期相距り
 生長の差あるものを一所に放つ時は其稚弱なるもの傷
 害を被り或は斃死するとあるを以てなり

孕兎鑑定之事

孕兎を知るには交尾後五日を経て又交尾を試み其交尾
 を爲すものは孕まざる者なり之れを避けるものは既に
 孕みたるものとす之れを確知するには最初交尾せし日
 より七八日を経て陰門の上部を片手にて探ぐれば肋骨
 を終る中眞に當て豆粒の如きもの手に觸る、あり之れ
 則ち孕仔なり脊椎骨に接して甚だ疑はしきものは尿道
 と子宮なりとす飼養者未熟の時は之れが探解を誤ると
 なきに非らず然れども尿は手に感ずるを堅くして丸く
 亦是れを探ぐるに強過なれば胎仔を害し遂に流産せし
 むるに至る危険も亦甚だしきものなり

巢造分娩の事

交尾後二十七八日過れば乳邊の毛を食取りて之れを集め或は藁を蒐集して室の片隅に於て巢を爲すこれ産時の準備なり期に至れば其巢の傍らにありて分娩し産兒の胞衣を咄め破り之れを食ふて後ち仔を巢中に移し亦其毛を抜きて之れを覆ふ此際に於て母兔に根菜及び青草を與ふれば乳汁の分泌を催促するの効あり麥を與ふれば汚露を下すの益ありとす亦交尾後十五六日にして毛を抜き或は藁を嚙へて其用意をなすとあり之れを中腹の巢と唱ふ其用意は自ら攪拌して元の如く散亂せしむるなり

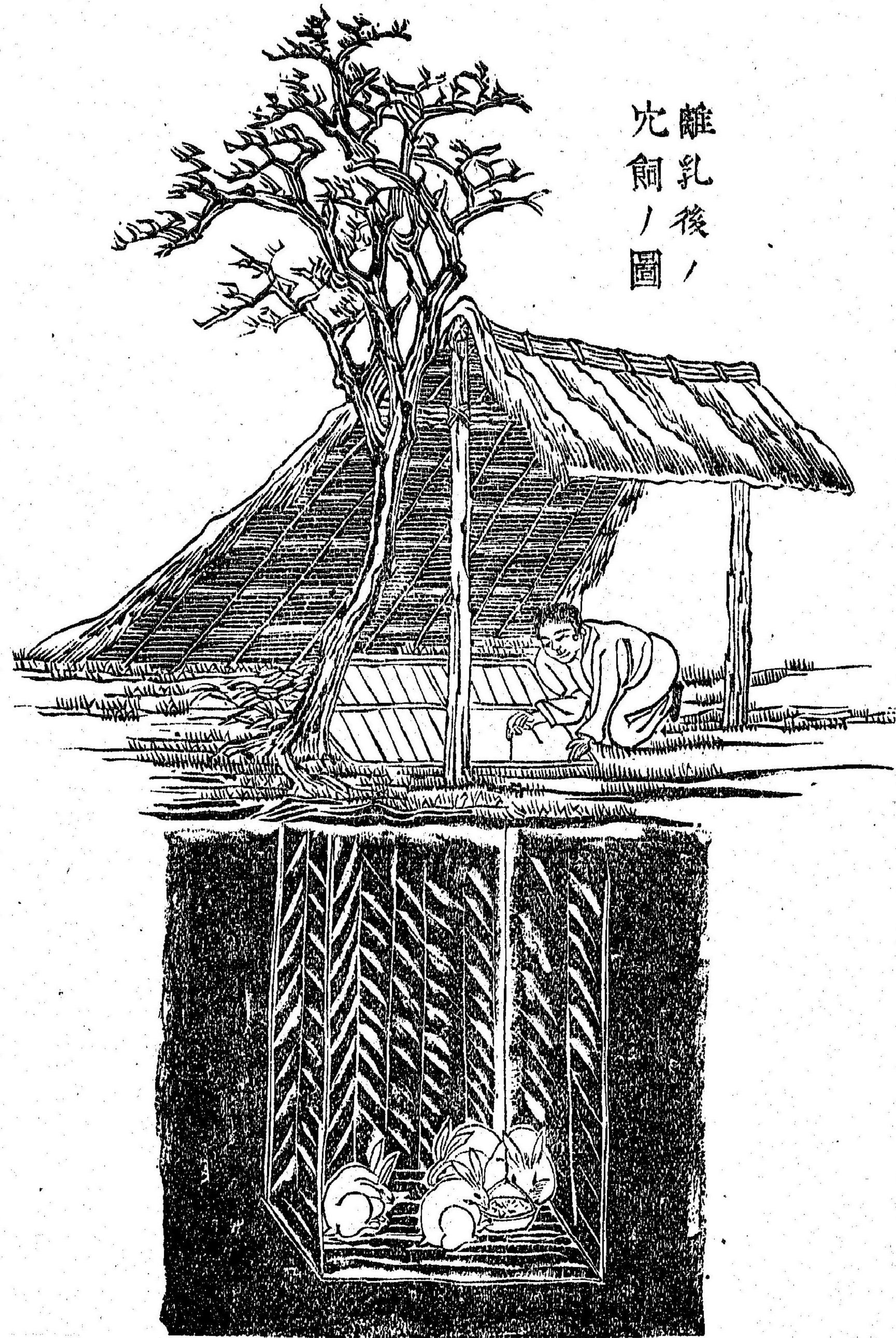
蕃殖の事

兎は生後四ヶ月を経て交尾し五ヶ月目に分娩す故に仔

の胎内にあると三十日間にして生産す其數毎七八頭より十二三頭を産む母兔は産後二三日にして亦次回の交尾をせしむ交尾後前の如く三十日にして必ず分娩するものなれば其割合を以て蕃殖の速かなるを知るべし今一番の母兔を以て丁寧に一ヶ年間蕃殖すれば其母兔假りに九回の分娩と定め其仔は四ヶ月にして交尾し三十日間にして分娩順次斯くの如く毎回八頭宛の仔を産す其産仔の半は牡にして半は牝とし其内斃死の比例を示し併して是を概算すれば五百餘頭の多きに至る可し

乳母の事

母兔數頭の中孕妊粗ぼ三四日間に分娩するものとせば假令ば甲の母は十頭の仔を産し乙の母は六頭の仔を産



穴離後ノ圖

兔仔離乳後の穴飼並圖

するをあり甲乙合して十六頭の生仔あり之れを二分して八頭宛となし甲乙二母に養育せしむるなり甲母の仔を乙母に育せしむるには其甲母より乙母に移すに際し其母の尿尿を仔鉢に塗り付く母自ら我産仔と信ずるものなればなり

兔仔離乳後の穴飼並圖

兔仔は生後三十日を経て離乳後二十日迄の間に斃るもの多し是を豫防するには氣候の同一なるを堅要とす之れは穴飼するに若くはなし其法は成るべく乾燥の場所深さ六七尺幅九尺長さ三間の穴を掘り穴の中の廻りは板にて立てに張り付け底は板張となし穴の上口は四五寸角の木材を以て枠を作り穴蓋を板にてなし其の

作り方 臺處の上げ板に倣ふべし夜間は其板蓋の上に藁を掩ふを宜しとす穴の上は藁葺の小家を作り向陽の宜敷を得べし穴の入口に階梯を差入れ穴の中の掃除をなすの用とすべし亦毎回食物を與ふるには此の階梯を要せず繩を以て食物の入れたる器物を釣り下げ亦其の食器を引上る等にして板蓋一二枚を開けば思ふ處へ自由に食物を與へらるゝなり而して常に蓋を切り暗室となし置き其穴底には乾草及び藁を入れ居を清潔ならしめ此の九尺に三間の穴中則ち四坪半に鬼仔百頭を入れるゝを適當とす亦穴中に飼養すれば成長の速かなるのみならず外氣の強く觸るゝ處に比すれば病に罹るゝなく故に離乳の子をして二ヶ月間此の穴中に養ひ后ち牧場

兔仔成長期の事

に放つを宜とす是れは外氣の變動を防ぐためなり
 産仔は生後七日にして初毛を生じ十日乃至十二日に
 して開眼爲し十七八日にして哺乳の間に食物を食ふ廿
 七八日にして離乳せしめ其後ち十五日間は雪花菜及び
 穀粕を適宜に水にて練り日に三四回に分ちて程能く與
 ふべし尤も離乳の際は食物に注意すると緊要なりとす
 而して離乳後十五日間は一室中或は乾草を敷きて成
 べく暖くして飼養すべし其後ち十五日を経れば牧場及
 穴舎等に放飼するを得べし此時兔仔の躰量凡そ百四
 五十目なり
 兔の畢丸切斷法

兔天壽の事

夫れ畢丸割去の目的は強荒なる牡を以て牝の如き性質
 穩和とならしめ且情慾を失なひ躰格を肥滿ならしむる
 にあり故に種畜の用なきものは悉く畢丸を抜き取るべ
 し是を施すには生後六十日乃至七十日にして畢丸外部
 に現れるに際し天氣の快晴を見立て施すべし夏日は早
 朝未だ草露の乾かざる前に施すは宜敷からず而して切
 斷術を施すには兎を捕へ脊を地上に据へ頭部を膝に挟
 み陰囊を前に向け施術者は陰囊を撮み能く揉み下げ鋭
 刀を以て畢丸を切斷し圓丸と共に精系を徐々に抛き出
 して是れを切るべし然して后ち冷水にて拭ひ切り口へ
 豚脂を塗るべし而して終日運行せしむるを可とす

兎は概して十二年を定年とす。雖も二十年の齡を保つものあり。予が今飼養する兎中にも最も年を経たるものは齡九年にして尙ほ躰質強健なり。一ケ年六七回の分娩をなす。毎回仔を産すると七八頭に下らず。性常に活潑にして。壯年の兎と毫も異なる所なく。現今の有様にては尙ほ四五年を経るも老衰の爲めに斃るゝ見込なし。

肉及皮の事

歐米諸國に食養を以て賞せらるゝ各種の兎肉は生後十ヶ月乃至十二ヶ月を経たる者其味最も佳美なりとす。其肉色赤くして軟らかに過ぎず。硬きに非ず。厭ふべき臭氣なく。我國在來の野兎の類ひに非らず。佛國人は兎肉を以て他獸の肉類是れが右に出るものなしと云へり。是れ則

ち肉の纖維細きを以て消化の仕易きが故なり。夫れ文明國の人は其衛生を重んずる。既に斯の如し亦兎皮は手袋及び種々の皮細工に用ひて。需用最も廣し。毛は多く帽子及び毛織物等の材料となり。上等の帽子は兎毛羅紗を用ゆと云ふ。又毛附皮は外套の裏に附し。或は襟に附す等の用をなし。其他種々使用あり。

皮剥及割烹の事並肉分析表

兎を屠殺するには捕らへて頸元を左手に持ち右の手に小なる金槌を持つて兎の頭部則ち兩耳の間を打つと一回にして容易に斃るゝものなり。而して皮を剥ぐに細き麻繩を以て兎の耳を縛し釣り上げ。後足の先端の皮を少しく切破り其切口に筆莖の如き管を差し入れ。一方より

空気を吹込み然かすれば皮肉の間に空気充滿して兎躰殆ど二倍餘に膨脹す茲に於て初めて皮は空氣の爲めに全體の儘にて分離せり之れを胸部の中眞より直斷して四足に及ぼし腮の下に至り剥ぎ終るなり如斯すれば剥ぐと易くして肉に毛の附着するとなし其肉は淡泊なるがを取ると鶏肉を調理するに異ならず其肉は淡泊なるが故に豚脂を混じて煮る時は其味豚に異ならず亦鶏脂を混ずれば鶏肉の味となる牛脂を以てするも又然り依て其調理の一ニを左に示す

「カッレツ」拵法

「カッレツ」は西洋料理の一にして最も滋養の食品なり其拵方は兎の肉をとり長さ二寸横一寸五分計りに切庖丁

の背にてよく敲き之に鯧鮓粉を以て衣となし而して鶏卵を塗り附け其上に「パン」粉を振り掛けて牛の油にて煎揚るなり之を器に盛りて食するときはやし菜を添へるを良とす

「コロッケ」拵法

「コロッケ」を拵へるには馬鈴薯を能く湯煮して皮を取り去り搥鉢にてよく搗り水篩にてうらごしをなし之れに兎肉を能敲き潰し食鹽及胡椒を少し入れ之れを前に作り置きたる馬鈴薯を混和して圓き細長の形ちとなして「パン」粉に砂糖及び鶏卵を交へたるを衣となし以て牛油又は豚油にて煮るなり

兔肉分析表

種類	百分中				
	膠質	蛋白質	脂肪	鹽類	水
草食飼兔	三、一八	二〇、三〇	一、二七	一、一九	七四、〇六
豆腐粕飼兔	一、四四	一九、七八	二、五三	一、九〇	七五、七五

疾病及治療の法

咳嗽原因及治療

其の原因は兎舎の不潔及び水濕或は兎室尿管の爲め濕氣多故亦は兎室を他所に變換し俄に寒冷極熱或は雨天なるとき強く外氣に觸るゝ等より往々寒胃して之れが爲めに發するとあり是れを治するに左の法に依り四五日間與ふれば全癒すべし

- 一 甘草末
- 一 惡泥子
- 一 宮園木香末
- 一 硫黃華
- 一 燒明礬
- 一 蜂蜜

右六品を細末となし蜂蜜を以て混合し砥劑となし一分二「ゲレイン」を一回に服せしむべし

涎病の原因及治療

此の原因は時候の變換より發するもの多しと雖も産乳の不足より生ずるものあり治療法は左の藥を用ゆ

- 一 赤蜻蛉の黒燒
- 一 明礬

右二品を粉末にして一回「ゲレイン」を水にて流し込み一日三回連用すれば二日間にして治すると妙なり

便秘の原因及治療

原因枯草菓乾燥の大麥等を食ひ水を用ゆるとを得ざれ

ば食物内臓中に有て軟化する能はず大便秘閉之れ
が爲めに膨脹し或は腹痛を起すとあり治法は先づ瀉腸
器を以て肛門より直腸に注射すべし尙ほ便秘強固なる
ときは二時間を経て瀉腸すべし施法は蜂蜜を微温湯に
溶し小なる瀉腸器を用ゆべし

胃弱病原因及治療

食欲減退して著しき病症なく兎次第に疲勞し痢するも
のは胃の衰弱に因る此の症大抵多液軟弱の草菜を食ひ
卑濕の室に居るものに多し治方
一 泥菖根 一 茵陳 一 珊篤理
各四匁を粉末となし飯粒にて丸劑として一日三回に與
ふべし而して重炭酸曹達少くを投じたる水を適宜に吞

下痢原因及治療

ますべし
兎硬結せる圓尿を利せずして軟便を下し亦水瀉するも
のあり原因は食物腐敗したるものを與ふるか亦た水分
多き菜草を過食するか夏日に在ては連綿たる霖雨及び
天氣水濕を含む等なり仔兎の下痢は大抵胃寒に因るも
の多し亦母兎の糞食を食ふ時又能く下痢を發するもの
あり治方は其發するの始めにありては燕麦若しくは稗
麥の炒りたるものと櫪の實を取り炒りて褐色となるに
至り粉末となし毎日三回宛與ふべし一回の分量三分な
り而して下痢減ぜざるものは下方を與ふ
方 炒燥皮末一匁を水五勺にて煎煮すると十分時滓を去り赤糖
葡萄酒少量を加へ朝夕二回に分與すれば下痢全く治するなり

兔毛感化の説

兔は其性物に感じ易きと他獸の比に非ず其毛色種々有
 りて之れを計るに違あらず是れ即ち兔が物に感じ易き
 に起因するならん其証據たるや本邦諸山に産する野兔
 は毛色茶褐に暗黒及び白を交へたるものを通常とす然
 るに北越及び奥羽諸國の野兔は冬日降雪の頃に至り其
 の毛色漸く變じて白色となる亦た春日消雪の期に至り
 原の如き毛色に復するものなり之れ則ち雪の白きに感
 じて其身白色に變ずるものならんか或古歌に曰く「越後
 なる雪の山邊の白兔おのが心で身もなり」にける亦或る
 俳人の古句に「野兔の毛もまだ白ろし桃の花」夫れ斯の如
 くおのが心で身もなり」にけるとて白色に變ず然り而し

て我邦の野兔寒地に産するものは多く白毛なるの理な
 るに然らずして矢張り夏日は通常毛色となるは甚だ疑
 がはしきとに似たりと雖も寒地に産する野兔は一ヶ年
 一回の繁殖にして冬日交尾をなさず故に其子孫に白色
 を遺傳するとなき所以なり亦予試験中白色を得るの目
 的にて純黒或は斑點の牝兔に純白の牡兔を交尾せしめ
 たるに牝兔初會の交尾なれば白色を得ると易し若し牝
 兔前回に他色の牡と交尾せしとあらば白色と交尾せし
 むるも多きは先に交尾したる他色の牡に似たる仔を得
 ると多しとす故に白色を得るには務めて交尾分婉三回
 に至れば斑點の牝必ず白牡に感じて白仔を産すると多
 し亦「バヌゴニアン」牝兔に「アンゴラ」牡兔を交尾せしに其

の仔は「バタゴニアン」を得たり其の後牝牡共に「バタゴニアン」を交尾せしめしに豈に圖らん長毛の「アンゴラ」種を得たるとあり之れ則ち先きに「アンゴラ」牝の交尾せし時其思情今日迄感染したるものならんか斯の如き例は其數多し然れども粗ぼ全一なり尙ほ爰に感化の例を擧げん樹上に棲息する蛙は其色怡も木葉の如く泥中の蛙は其色泥の如し是れ等も自然感情の致す處なるべし亦本編種類項目中に陳る如く兎に達摩と稱し白毛水色眼のものあり之れ等は胎妊中他の白色のものに感じ變化したるの一種にして達摩の仔は必ず他色のもの多くして白色稀れなり兎は蛙の如く泥を見て泥色に化すの例なし譬一ば春山青色の地に居て其色青ならず秋山の紅葉

を見て赤色となるにあらざれども懷孕中に感ずる處あれば必ず二色の兎三色となり亦は一色となるの例証少なからず此の思想に依り感化するは特に兎のみに限らず既に予が飼養する山羊「アンゴラ」種は交尾后通常山羊と居を同ふせしに短毛の仔を産したるは實に本年四月のとなり亦佛國種純白牝山羊に黑色の「チベット」種の牡を交尾せしに其仔純白なりしが其後二回の交尾に全種の純白牡を交尾せしに豈に圖らん黑色の仔を産したり是れ先きに交尾せし黑色の牡を慕ふの感ありたるものならん亦闘鷄を飼養せしに其の傍に「コーチン」鶏を飼養したり然るに其闘鷄の雌は傍らにある「コーチン」鶏の聲を聞きて感じたるか其闘鷄の卵を孵化せしに雛の脚部に羽毛

を生じたり夫れ兎は勿論山羊及鶏に至る迄既に斯の如く亦西洋にても此例少なからずと云ふ今其の一二を擧れば「ミストルモスター」氏の報告に曰く純粋「アンカス」黒牝牛を白斑點の闊牛と共に居を同ふせしめしに其仔は黒白の斑點を生じ且つ角を生ぜしと云ふ

「ミストルジョーシ」氏の報告に赤白の牝牛に赤白の牡を交尾せしむるとき近傍に黒白の牡あるを見て牝牛大に驚きたり其後分娩したる仔は黒白なりしと云ふ

「サンダー」氏の飼養せる羊は胎孕のとき試みに其畜舎に熊を入れしに其の産仔黒色なりしと云ふ亦牝牡共に赤色の短角牛交尾するとき白き「ペンキ」塗を見て驚きたるに其産仔は白色なりしと云ふ

「ミストルハスター」氏或時牝牛産死せるを以て皮を剥ぎたる時他の胎孕牝牛之れを傍見せしに其後産しる仔は爪を有せず又膝より下は皮のなき仔を産したりと云ふなり

類は類を生ずるは自然の理なるを以て人間は人間を生産すると勿論なり然らば其同じ人間の父母が生産する兄弟或は姉妹にして其容貌思想等皆同じかるべきに反て相異なるは既に氣候食物年齢健康舉動等日々年々相異なるを以てなり亦た醜男醜婦にして美男美女を産する親あり父母至て美なるに其兒甚だ醜男女を産むとあり之れ婦人の不義なるに非らず妊娠中の感情より原因するものならんとは學士社會の一問題にして皆諸君の

知らるゝ處なり

版權登錄

實用兎飼養新書終

明治廿二年十月十九日印刷出版

(定價金四拾錢)

版權
所有

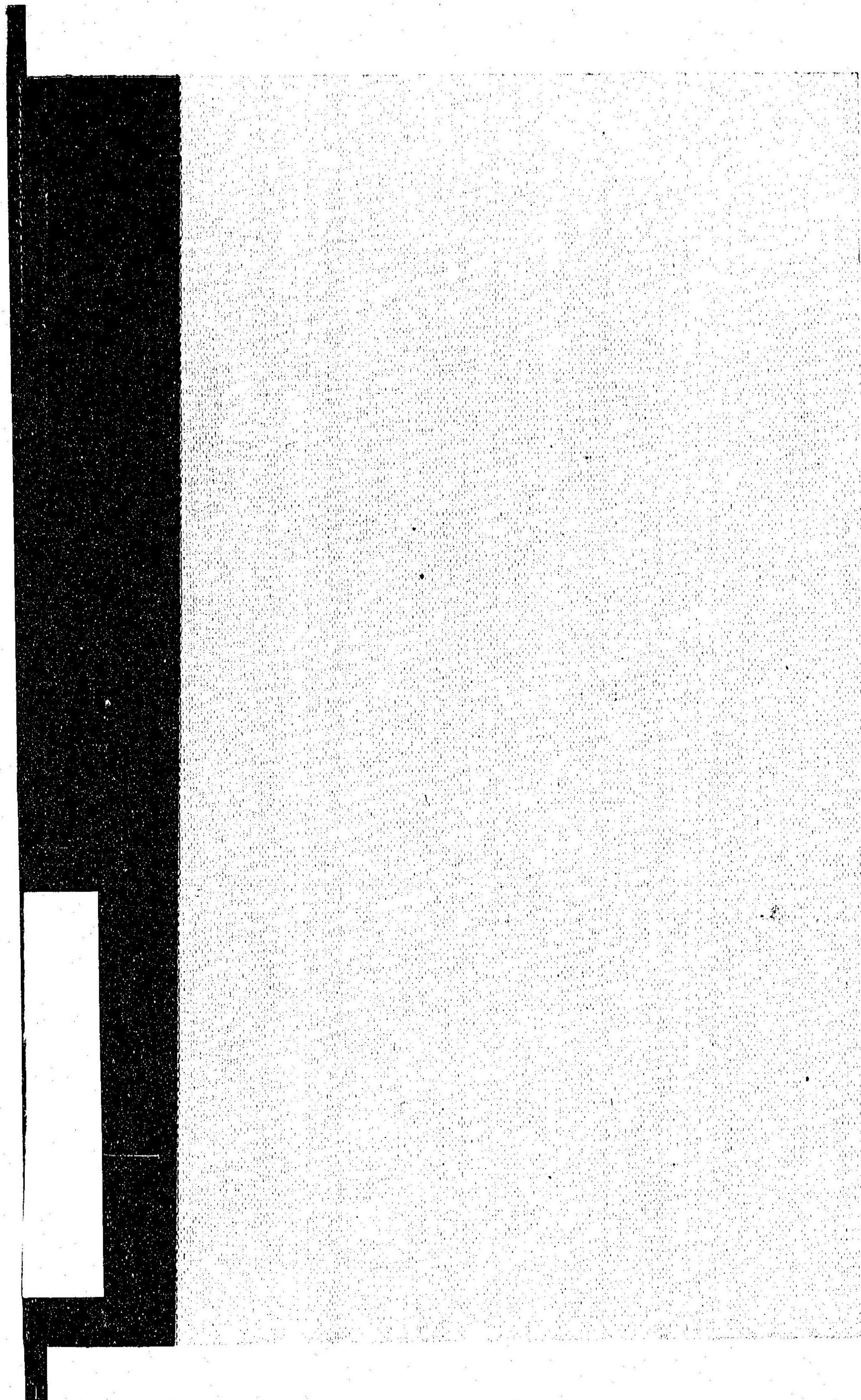
著述者
兼發行者

井上龍太郎
東京南豐島郡澁谷村元
下澁谷三十六番地

印刷者

中村清躬
東京芝區三田四國町三
番地

EX 514



特29

939

064791-000-9

特29-939

實用兔飼養新書

井上 龍太郎/著

M22

CCD-0242

